

信州白樺高原

北化だより

春暁信州

冬から春
そして
未来へ

令和5年春
100号

編集・発行

 信州リゾートサービス株式会社

〒384-2309 長野県北佐久郡立科町芦田八ヶ野 210
TEL(0267)55-7777 FAX(0267)55-6018
<http://www.sresort.jp/> E-mail:info@sresort.jp

冬のできごと

ドライブdeぐるめ ベーカリー&本格和食
時代感じて... 信州 街道歩き 其の4
ちょこっとおでかけ 諏訪湖エリア
知って得する・雑学コーナー
時代が変わっても変わらぬもの

第二牧場から見た夕月と浅間山
(令和5年1月6日撮影)

神代杉 樹齢1500年以上
(令和5年3月9日撮影)



上田城 夜桜
(令和4年4月13日撮影)

冬のできごと

今年の冬は…

昨年に比べると積雪量は少なかつたのですが、2月10日には朝から降り続いた雪が夜まで止まず、乗用車がすっぽり隠れる位となり、30cm以上の積雪となりました。幸い大きな被害は発生せずホッとしました。



1月～2月に掛けては冷え込みの強い日が多く、日中でも氷点下二桁という日が続きました。その影響により、凍結に関するご相談やご依頼が多くありました。1月25日～26日にかけて、10年に一度といわれる大寒波に見舞われた日本列島。立科町ではマイナス18.6℃を記録し、その冷え込みは長野県内で第2位、全国では第7位となりました。ちなみに最低気温全国1位は長野県の菅平で、マイナス27度。6位までは北海道が占め、続いて立科町となりました。

この厳しい冷え込みの恩恵を受けているのが、長野県の特産品である寒天や凍み豆腐です。ピリピリとした寒さを長野県人は「凍みる(しみる)」と表現しますが、昔から様々な方法で「凍み」が利用されてきました。この冷え込みが追い風となり、生産が順調だったようです。

冷え込みが強い日が続くと出現するのが、諏訪湖の御神渡りですが、最後に確認されたのは5年前の2018年。近年、暖冬の影響により全面結氷する日が減り、御神渡りの現れない「明けの海」が増えています。今年は全面結氷となる日はありましたが、10℃以下の寒気が続くことが無かったため、御神渡りの出現は確認できませんでした。

Bakery 一歩ベーカリー



お店に入り真っ先に目に飛び込んできたのは、アンティーク調のお洒落なショーケースでした。パン屋さん? それとも家具屋さん? とも思わせるような雰囲気のお店です。ショーケースの中には丁寧に焼き上げられたおいしいようなパンが入っていました。この建物は以前追分だんごで知られた「かしわや」を、オーナーである青野さんが、中山道の風情ある町並みや小川のせせらぎ、遠くに見える浅間山との調和を大切に考え、リノベーションしたとのこと。また、「かしわや」で使われていた木材を再利用して作ったという椅子やテーブルは、ひとつひとつに趣があり、見ているだけでほっこりします。

青野さんは小諸で「工房ジオ・パライス」という会社も営んでおりますが、「自分が好きなパンを食



注文もできます。全国各地から注文受付けています。

べたい」という想いから、ご自身でライ麦を育てることから始められたそうです。無添加で保存料・着色料は使わず、安心で安全な美味しさを追求し、美味しいパンがある生活を一緒に楽しんでいただきたいという想いから2013年7月にオープンしてもうすぐ丸10年になります。

Guide



住所 ▶ 北佐久郡軽井沢町追分578
☎ 0267-41-6511
営業時間 ▶ 10時～17時 定休日 ▶ 毎週水・木曜日
◀ オンライン注文はこちらから!

「たてしなじんじや 蓼科神社について」

神代杉と冠者社(野方神社)

「蓼科神社」は県道40号の沿線に鎮座しております。この神社は里宮で、本宮は蓼科山の山頂にある「奥宮蓼科神社」です。祭神は高皇産靈神。妊婦の守護神として崇敬され、参拝すると子孫が繁栄すると云われています。

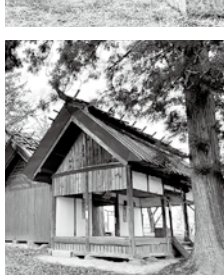
「蓼科神社(里宮)が建造された言い伝え」

昔、立科町芦田(古町地区)にある*1神代杉の幹の頂から三回三晩雷光が放たれ、「蓼科山には神変怪異があるため婦女の登山は禁ずる。ここで参拝するように」とのご神託があったそうです。当初は芦田(野方地区)に建てる計画で、村人総出で木を運んでいたとき、現在ある里宮の場所です突然重くなって運べなくなり、「ここに宮を立てよ」と、再度ご神託があり、この場所に里宮「蓼科神社」が建てられたと云われています。しかし、実際に町民の間で言い伝えられている内容は、山より荷車にて移動中、車輪がはずれてしまい、これ以上運べないということで現在の場所となったとも云われています。本宮の所は分かりませんが、そのような経緯があるためか、毎年夏に立科町各地区に建てられる灯籠の火は、「奥宮蓼科神社」より出発して、まず当初里宮を建てる予定だった*2冠者社(野方神社)へと巡ります。その後里宮の蓼科神社へ行き、各地区へと巡っていくとのこと。



*1 ★神代杉(表紙写真)
立科町天然記念物 樹齢1500年以上
里宮の御神木で蓼科神社里宮の入口に立っています。3度の火災を乗り越えそのたび不死鳥のように蘇り今日の姿があります。内に秘めた生命力とも言えるような巨杉です。

▲蓼科神社(里宮)



*2 ★冠者社(野方神社) 立科町文化財
木曾義仲嫡冠者義重の霊が奉られてます。義重の家臣が、部落の鎮守神として奉祭したと云われています。

和食処 慈風庵



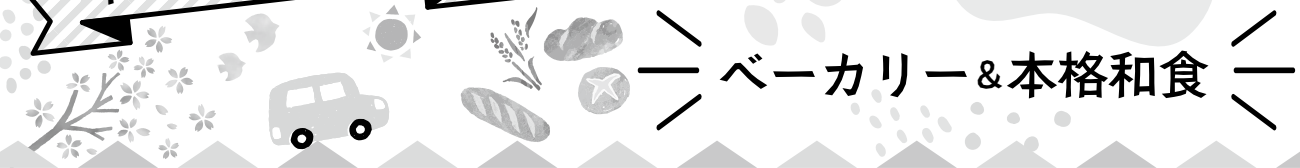
立科町の山部地区に、古民家を利用した「慈風庵」が昨年オープンしました。外には蔵があり、とても風情あるお店です。長年様々な地で料理人をされてきたご主人が作り上げる本格的な和食料理の品々を楽しむことができます。特に一番だしにこだわっており、北海道産天然利尻昆布と鰹節を使用しているとのこと。

多くの方が注文する「慈風膳」は、とろみのあるこだわりだしのあんがかかった茶碗蒸しを始めとして、様々な種類のお料理を味わうことができます。店内はお座敷と縁側にテーブルがあり、奥座敷では座って過ごすことができます。のどかな庭の景色を見ながら、ゆっくりとした時間の流れを感じることが出来ます。また、飲み物の持ち込みが自由となっております。お座敷と合わせて小さいお子様連れの方もゆっくり過ごせるような素敵な空間です。



◀こだわりのだしあん茶碗蒸し

ドライブdeぐるめ



Guide

住所 ▶ 北佐久郡立科町大字山部2226-1
☎ 0267-88-8482
営業時間 ▶ 昼11時～14時 夕(予約制)17時～19時30分
定休日 ▶ 毎週水・木曜日

時代感じて…

街道は人が生きた
歴史の道

信州 街道歩き 其の4

十九宿 沓掛宿

二十宿 追分宿

馬蹄を響かせ京の都に駆け上がった武将、
物産を背負いながら道なき道を汗して歩いた商人達等…
自らの人生を切り開き、必死に生きた人々に
想いを馳せることができる時間。



江戸時代、軽井沢宿・沓掛宿・追分宿の三つの宿を「浅間根腰の三宿」と呼びました。特に中山道と北国街道の分岐点に位置した追分宿は参勤交代の対明夜善光寺参詣のたび人等で大変賑わいました。元禄時代には旅籠屋71軒、茶屋18軒、商店28軒もあり、とても栄えていたそうです。

宿場町の雰囲気を今も感じられます。また、文学者たちに好まれた地でもあり、堀辰雄文学記念館や追分宿郷土館などの資料館もあります。



江戸から数えて十九番目の沓掛宿は浅間山の大噴火と飢饉で苦しんだ宿場で、昭和26年(1951)の大火で宿場のほとんどが消失しました。昭和31年(1956)には沓掛駅が中軽井沢駅に変わり、沓掛という地名も中軽井沢になりました。今は沓掛時次郎の石碑のみが沓掛を名乗っています。今では、中軽井沢の知名度が高く、沓掛宿という中山道の歴史が一つ消滅した感じで少し残念です。

中軽井沢駅の周辺には、本陣跡や脇本陣つる屋跡・脇本陣ます屋跡・脇本陣つた屋跡そして一里塚があります。

1 御影用水温水路

追分の分去れから小田井宿向かって1kmほど行くと、広い川が見えてきます。流れる水はゆっくりで水面には周囲の木々が映り込み、まるでヨーロッパの運河を思わせるような風景です。これは『御影用水の下堰』で、江戸時代に小諸市の東南に位置する御影新田の稲作のため、小諸藩の柏木小右衛門が私費を投じて開削した用水路です。



御影用水の水源は浅間山麓の伏流水であるためとても冷たく、冷水による低温障害を防止する目的で、昭和42年、軽井沢町追分付近に温水路が完成しました。延長約1km、幅20m、水深20cmの温水路は、水を浅くゆっくりと流すことで、その間に水温が約1.5度上昇するそうです。このおかげで小諸市南東部にある御影新田の広大な水田に水を供給することが可能になったそうです。

2 「分去れの碑」 中山道と北国街道の分かれ道



分去れの碑は京都へ向かう中山道と越後へ通じる北国街道の分岐点に立っている碑です。当時の旅人の道標となっていたもので、当時のままの石の常夜燈も見るすることができます。

4 「浅間神社」軽井沢町文化財指定

軽井沢町内最古の木造建築で、室町時代に建立された神社です。時代を感じる木造建築の本殿のほか、敷地内には芭蕉の句や追分け発祥の地碑などがあります。

神社の前を流れる川は『御影用水の上堰』で、佐久平の地を潤す灌漑用として、江戸初期に開削されたもので、各旅籠はその水を引込み、台所や風呂場で使っていたようです。

現在は公園のように整備されており清流の音が散策者の癒しとなっています。

3 「泉洞寺」ユニークな名前のお地蔵さんがズラリ!!



泉洞寺は1598年に開創された古いお寺です。境内には「さあさあ手を合わせて地蔵」「カーリング地蔵」、「おべんきょうちょっとわかんないなあ地蔵」「さあさあ一杯やんべ地蔵」等々ここでしか見られないユニークな名前のお地蔵様が並んでいます。

作家、堀辰雄が生前好んで散歩したスポットとしても有名です。

なるほどコラム

宿場町のお宿について

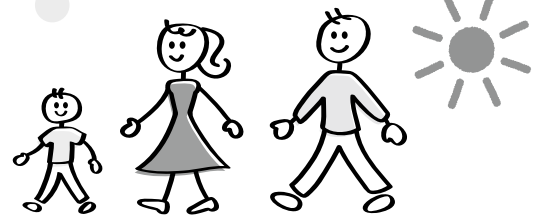
- 現代でいう
- 本陣…高級ホテル(ハイエンド)
- 脇本陣…ワンランク下のホテル(アッパーミドル)
- 旅籠…ビジネスホテル(カジュアル)



浅間神社前 御影用水上堰

諏訪湖 エリア

ちょこっとおでかけ



諏訪湖を中心に栄えた歴史ある町。高島城周辺を散策しました。

高島城

「諏訪の浮城」

天正18年(1590年)、豊臣秀吉の家臣日根野織部正高吉が諏訪の領主となり、その後7年掛かって築城しました。当時は城の際まで諏訪湖の水が迫り、湖上に浮いて見えたことから別名「諏訪の浮城」と呼ばれました。その後、関ヶ原の戦いで徳川軍に属した諏訪頼水が藩主となりました。明治4年(1871年)廃藩置県により封建制のシンボルである城郭の撤去が決定し、明治8年(1875年)には天守閣が撤去されました。しかし、諏訪住民の高島城に寄せる愛着は強く、昭和45年(1970年)天守閣が復興されました。



▲野面積みという工法で造られている。地盤が軟弱の為、沈下しないように大木で組んだ筏の上に石垣を積んでいる。



▲天守閣から見える富士山

天守閣概要

延べ面積…381㎡
高さ…20.2m、三層
天守台…12.54m(石垣)
1階 郷土資料室
2階 高島城史料室
3階 高島城史料室・展望台

住所 ▶ 諏訪市高島1-20-1
☎ ▶ 0266-53-1173
開館時間 ▶ 9:00～17:30
(10/1～3/31は16:30まで)
入場料 ▶ 大人310円
子ども150円
休館日 ▶ 12/26～12/31
及び11月第2木曜日

除湿機を選び方

除湿機には、主にコンプレッサー方式とデシカント方式の2つのタイプがあります。

「コンプレッサー方式」

エアコンの除湿機能と同様に、湿った空気を冷却器で冷やす事で、湿気を水滴にして排出する方式です。

「メリット」

●気温の高い夏場に強い。●消費電力が少ない。

「デメリット」

●気温が低い季節は除湿能力ダウン。●運転音が大きい。

「デシカント方式」

デシカント素子という乾燥剤のフィルターに湿気を吸着させて、そこにヒーターをあてて高温多湿となった空気を再度冷やす事で、湿気を水滴にして排出する方式です。

「メリット」

●気温の低い冬場に強く一年中使える。

「デメリット」

●ヒーターを使用するので消費電力が多く、部屋の温度を上げてしまう。

除湿機というと一般的に、雨が続く梅雨の時期や湿度の高くなる夏場を使用するとお考えの方が多いと思いますが、冬場に発生する結露対策にはデシカント方式の除湿機がお勧めです。また、コンプレッサー方式とデシカント方式両方を搭載したハイブリッド方式の除湿機もありますので、除湿機を選ぶ際にご参考にしてみてください。

不明な点等ございましたらお気軽にご相談ください。



丸安田中屋

まるやす たなかや

地元でウワサのお店

宝永2年(1708年)穀物・塩問屋として創業。諏訪でこだわり地元の素材を生かしたお菓子を作り続けている老舗です。「信濃の国」や「お諏訪まんじゅう」等の定番和菓子はじめ、シヨウケース内にはどれもおいしいような洋菓子がずらり。中でもチーズケーキ(アントルム)が絶品!諏訪でチーズケーキを購入するなら丸安田中屋で...というほど人気の商品です。



本店 ▶ 諏訪市高島3-1421-1
電話 ▶ 0266-52-5266
営業時間 ▶ 10時～17時 定休日 ▶ 毎週水曜日

上諏訪駅前店 ▶ 諏訪市諏訪1-2-5 電話 ▶ 0266-53-1260
高島第2工場 ▶ 諏訪市高島3-1405-1 電話 ▶ 0266-58-4892

湖畔公園 足湯

誰でも気軽に使える足湯があります。目の前に諏訪湖が広がり、天気が良い日は北アルプスも見えます。



梅月堂

梅月堂は朝9時30分、販売したら閉店というお店です。早朝から手作りで大福餅やおこわを炊いて販売。地元のお客様から大変愛されているお店です。いちご大福・ずんだ餅・豆大福どれもおいしいです。そして極めつけが「くるみ餅」濃厚な胡桃だれとなめらかなお餅の舌触り!1個では物足りず、2・3個はペロッと食べられちゃいます。



住所 ▶ 諏訪市大字湖南北真志野6282
電話 ▶ 0266-52-1864
営業時間 ▶ 9時30分～売り切れ次第 定休日 ▶ 毎週月曜日

実質2千円で旅行しよう!!

「ふるさと納税の返礼品」が大好評!!

立科町では、ふるさと納税の返礼品として、特産品の他に「立科町応援感謝券」を発行しています。利用期間は発行から2年となっております。たとえば、10万円の寄附をすると、実質2千円の負担金で残りは還付・控除され、返礼品としては3万円分が立科町応援感謝券として発行されます。利用対象施設も増えております。ぜひ立科町での思い出づくりにご活用ください。立科町在住の方も立科町応援感謝券を使えますので、立科町を遊びつくしてみるのはいかがでしょうか。

詳しくは立科町ホームページをご覧ください。
<https://www.town.tateshina.nagano.jp/>

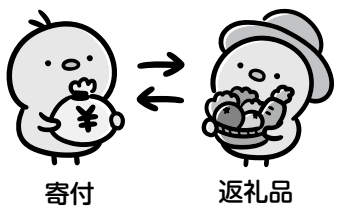


▲立科町ホームページ

※ふるさと納税とは...

応援したい自治体に寄附をすることで、寄附した金額の一部が所得税や住民税から還付・控除されるため、自己負担が少なく、お得に自治体の魅力的特産品などの返礼品がもらえるという地域応援の仕組みです。

ふるさと納税



寄付

返礼品

時代が変わっても 変わらぬもの

美しい景色を見て、良いものに出会うことができた時、
人の心は優しさや希望に満ち溢れてくるような気がします。



蓼科山



夕陽の丘



車山高原から見た富士山



小諸市から見た蓼科山

山々の風景は昔も今も変わらず
私たちがあたたかく迎えてくれます。

花だより100号発行にあたり

本誌「花だより」は昭和49年（1974年）から発行され、今回100号になりました。47年という長い間には、たくさんのお客様よりお写真や情報のご提供をいただき、また県内のお店の方々には取材にご協力をいただきました。時には内容に関してのご意見やご指摘もいただき大変有難く思っております。今回100号が発行できたのは、今までお読みいただいた皆様のご協力のおかげと感謝の気持ちでいっぱいです。

この花だよりは、別荘のお客様に白樺高原の情報をお届けするという目的で、故安江介三郎（信州リゾートサービス創業者）によって、発行されました。表紙の「信州白樺高原 花だより」の題名は安江介三郎が残した書を引用しています。次々と時代は変化し、現在ではこちらの情報をSNS等で収集・発信できるようになりましたが、当初から変わらず紙面での発行を続けている理由の一つとして、毎年本誌が届くのを楽しみに待っていてくださるお客様がいらっしやることです。手に取ってページをめくり読んでいただける。そこには時代が変

わっても変わらないものがあると感じます。

故安江介三郎は「お客様・地域のお役に立ちたい」との想いで、42年前に信州リゾートサービスを創業しました。先代の想いを大切に、これからも皆様により良いサービスや情報を発信していきたいと考えております。これからも引き続き信州リゾートサービスをよろしくお願いたします。

信州リゾートサービス(株) 経営理念

- 一、美しく快適な生活環境を創造する。
- 二、自然環境を大切にし、地域社会の発展に貢献する。
- 三、常に相手の利益を考え、共に発展成長する。

信州リゾートサービス(株) 同

※弊社HPもご覧下さい。

